

# そらこめ通信 No.31 2013.02発行

日頃より弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。  
 昨年、沼田町では過去最大の降雪量に見舞われ、我々農家の中にはハウスの倒壊など大きな被害を被った方がいました。ところが、今年は昨年にも増しての大雪。私も、困惑の中で日々除雪作業を行っています。  
 沼田町の公式ホームページによると、今年の1月21日現在における降雪量累計は9m21cm、昨年同日の計測値が8m51cmなので、現段階で今年は70cmほど昨年より多いようです。過去最大を記録した昨年度の降雪量累計の最終数値が13m89cmでしたが、このままいくと記録更新も夢ではない?...という勢いです。  
 これらの雪、春になれば融けてなくなってしまうもの。しかし、冬期間道路などに降り積もった雪は、こまめに除雪をしないと経済活動の妨げになるばかりでなく、地域住民の命を脅かしかねない実にはやっかいな代物といえます。  
 沼田町がこの除雪に振り向ける予算は年間で7千万円を超えているとのこと。雪が降らない地域ならば決してかかることが無い費用です。最近、除雪費用をかける代わりに融雪溝とか流雪溝を公費で設置し、道路沿線の住民が除雪するというパターンが増えつつありますが、この方法は過疎地には向きません。住民の高齢化とともに雪を融雪溝に投入する人間がいなくなるわけで、結局は町内会なり自治体なりがお金を出して除雪するという結果を迎えます。民間にあっても除雪にかかる経費は決して無視できる金額ではありませんが、地方自治体は「財政健全化法」が施行されていることで問題はより深刻であるといえます。  
 愚痴じみた文章が続いてしまいましたが、除雪にお金をかけなければ生活できない地域があるという事実を広く国民の皆さんに理解してほしいのが本音です。でも、我々はこの場所に愛着を持っています。雪が多いこの地から今年も上手い米を届けます。



もみ殻くん炭小屋の除雪～昨年末に除雪し2度目の除雪です(1月8日)      納屋の除雪(1月8日)



住宅の除雪(1月11日)      ハウスの積雪状態の確認～1m90cmありました(1月13日)



ポンプ小屋の状況(1月13日)      ハウスの除雪～雪を崩す社長夫妻(中央)と除雪機を扱う山崎君(右)(1月14日)

今年も、もみ殻で「くん炭」を作っています。



物々しい装備の山崎君(1月23日)      もみ殻の山から箕(み)のでもみ殻をすくい、くん炭製造機に投入(1月23日)



一杯になったところで蓋をして密閉しバーナーで着火します(1月23日)      着火を確認(1月23日)



青空にたなびく煙(1月23日)      翌朝、くん炭を取り出す山崎君と出来上がったくん炭(1月24日)



作業が終わると、次のくん炭作りに取り掛かります(1月24日)      融雪剤散布機の整備(1月24日)  
 毎年冬の間に、大量に出るもみ殻を使い「くん炭」を作っています。出来上がったくん炭は春の苗床に土と混ぜ合わせて使います。くん炭は苗床の雑菌を抑制し、排水性、通気性を高めたり、良性微生物を増やしたりと、苗にとっても良い効果があります。  
 これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ  
<http://www.sorachi-kome.jp/>  
 ブログ「生産日誌」更新中です